

經濟史

飯田恭研究会

太田淳研究会

神田さやこ研究会

中西聡研究会

松沢裕作研究会

飯田恭研究会

—経済史、環境史—

1. 研究分野

経済史、環境史、社会史

2. 学生への要望

農村・林野の歴史や経済史に興味があり、自分から進んで学習する意欲があること

3. 選考について

a. 募集人数：6名程度

b. 選考内容：レポート、面接、成績表の提示

c. 他学部入ゼミ、PEARL生受け入れの可否：可

d. 選考基準

レポート、面接、成績表から、研究を遂行していく上での前提条件（明瞭な問題関心、勤勉さ、経済史等の基礎知識）が整っているかどうかを判断する。

4. ゼミ構成員

4年生：男子3人、女子0人
（他学部0人、留学中0人）

3年生：男子3人、女子0人
（他学部0人、留学中0人）

5. 活動紹介

①ゼミ（火曜4.5限）

②サブゼミ なし

③パートゼミ

なし

④インゼミ

例年12月に塾内の経済史、社会史系のゼミとインゼミを行い、三田祭論文の発表とディスカッションを行なっています。

⑤課外活動

親睦を深めるため、食事会などを行なっています。

⑥三田祭

3年生は三田祭論文コンテストに向け、論文作成に取り組みます。

⑦夏休み

三田祭論文に向けて自主的に資料、文献を読み進めます。また、定期的集まり、手に入れた情報を共有することで三田祭論文のテーマを具体的なものにしていきます。

⑧合宿

行なっていません

⑨ゼミ必修授業

ゼミ必修授業はありません

⑩経費

年会費、合宿費等は必要ありません。輪読文献を買う際は自費での購入になります。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

ゼミで扱っている輪読文献を読む他、特に森林や農村について興味を持ったものについて色々調べてみるのがゼミ試験対策になると思います。

7. 先生が担当している講義

経済史入門 I

8. ゼミ HP・SNS

Twitter: @iidaseminar

9. 連絡先

太田淳研究会

—現代東南アジア経済及び東南アジア経済史—

1. 研究分野

本研究会では、現代東南アジア経済及び東南アジア経済史について研究しています。現代東南アジア経済については、近年の優れた研究論文を輪読して討論します。東南アジア経済史については、基礎的な知識を習得するために基本文献を輪読します。希望者には英語やインドネシア語などの一次資料を読んで論文にまとめる方法を指導します。

3年生は4人1組でグループ研究を行い、4年生はテーマに合わせて個人またはグループで研究を進めます。各グループおよび個人で研究計画を作り、国内予備調査も行います。計画を練り上げるために他のゼミと合同報告会を開催し、発表を行います。本研究会の最大の特徴と魅力であるジャカルタでフィールド調査中（2019年度は13日間）は、ジャカルタの経済的に未発達地域（カンポン）に全員で合宿します。通訳の手助けを得て周囲の住民に聞き取りやアンケートを行います。フィールド調査最終日には、インドネシア大学の学生や教員の前で調査結果を報告します。

フィールド調査で集めたデータは、さらに秋学期を通じて分析し、全員で議論し関連する文献資料や先行研究もさらに調べます。この段階でも合同ゼミ報告会を設け、外部からフィードバックを得ます。こうして3年生は三田論を作成、4年生は卒論を完成させます。

2. 学生への要望

学生には、自分でテーマを見つけ出す主体性を強く持ってほしいと思います。また、自分の考えを積極的に表明し、他人の意見に対してもどンドンコメントしてほしいと思います。太田淳研究会は「何かを教えてもらう」ところではなく、自分が夢中になれるものを見つけ出しお互いに刺激しあって高め合う場だと思ってください。

この研究会では、現地社会に足を踏み入れ、人々がどのように暮らし、どのように経済と関わっているのかを理解することを重視しています。学生には、文献からだけでなく、人々から実際に話を聞くことによって、現代の東南アジア社会で何が起き、何が問題であるのかを自分でつかみ取れるようになってほしいと思っています。

良い研究を進めるためには、学生の意見に応じてゼミ活動計画も学期中に何度も見直します。意見を出し合って、自分たちで良い研究会を作り上げる意識を持ってほしいと思います。

3. 選考について

a. 募集人数：10-12人

b. 選考内容

課題レポート、面接、成績

c. 他学部入ゼミ 可

PEARL生受け入れの可否 可

d. 選考基準

課題レポートと面接を重視します。意欲、問題関心、積極性などに基づいて選考します。

4.ゼミ構成員

4年生：男子7人、女子4人
（他学部1人、留学中0人）
3年生：男子8人、女子3人
（他学部1人、留学中1人）

5.活動紹介

①ゼミ（火曜4・5限）

②サブゼミ なし

③パートゼミ なし

④インゼミ

SFCの野中研究会と実施予定

⑤課外活動

インドネシアでの研究調査、その他日本国内での調査

⑥三田祭

3年生3グループによる論文発表

⑦夏休み

インドネシア調査

⑧合宿

インドネシア調査

⑨ゼミ必修授業

インドネシア語、アジア経済史

⑩経費

自費でのインドネシア調査

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

試験なし

7.先生が担当している講義

日吉

自由研究セミナーa/b【通年・月4】

地域文化論I（東南アジア）【春・月5】

経済史概論II (PEARL)【春・木2】

経済史入門II【秋・月5】

三田

アジア経済史a(Economic History of Asia)

【春・火3】

8.ゼミHP・SNS

HP: <https://otaseminar.asia/>

Twitter:

<https://twitter.com/otaseminar20165>

Instagram:

<https://www.instagram.com/otaseminar/>

9.連絡先

神田さやこ研究会

—アジア経済史—

1. 研究分野

アジア経済史。教員の担当が南アジア（インド、バングラディッシュなど）なので、南アジアに関する研究が中心となる。具体的には、アジア地域の経済発展のダイナミズム及び現在の南アジア経済・社会が抱える諸問題（エネルギー・環境、貧困・格差、女性など）を理解する上で重要な歴史的背景やその中でつくられてきた社会的・文化的特徴について、長期的視点にたった研究を行う。ただし、他のアジア地域に関心がある学生や、経済史以外の歴史分野（文化・芸術、経営、環境など）も歓迎する。

本研究会での最終目的は卒業論文を完成させることであるので、各自設定したテーマに基づいて研究を進めてもらう。3年生の春学期には、(1)基本文献の輪読と討論を通じて、基礎知識及び研究の基本的フレームワークを習得し、(2)三田祭発表用共同研究の課題を設定する。夏休み中には、その課題に基づいて多くの文献を読み、皆で議論し、研究を進める。秋学期には、(1)三田祭発表に向けた報告・討論を行い、論文を完成させる。三田祭後、(2)具体的な卒業論文のテーマを設定し、研究に着手する。4年生は、個別に卒業論文の執筆を進め、ゼミでは、研究や議論をリードする役割を担う。

2. 学生への要望

アジア地域に関心を持ち、積極的に課題に取り組むことができる意欲的で主体的にゼミ活動ができる学生の参加を期待しま

す。卒業論文作成に向けての約2年間、多くの文献を読み、議論し、報告し、書いてもらうことになるので、そのつもりで参加してください。

3. 選考について

a. 募集人数：AB 合わせて 10 人程度

b. 選考内容：レポート、面接、成績

c. 他学部入ゼミ、PEARL 生受け入れの可否
他学部入ゼミ：可

PEARL 生受け入れ：原則不可（希望者は教員に直接相談）

d. 選考基準：レポートを重視し、成績と面接を合わせて総合的に判断する。

4. ゼミ構成員

4 年生：男子 5 人、女子 0 人
（他学部 0 人、留学中 1 人）

3 年生：男子 6 人、女子 0 人
（他学部 0 人、留学中 0 人）

5. 活動紹介

①ゼミ（火曜 4,5 限）

神田ゼミでは、インドを中心とした南アジアの経済史について研究を進めています。具体的には、アジア地域の経済発展のダイナミズム及びその経済・社会が抱える問題を理解するため、洋書等の資料を用いた輪読や討論を通じて、その歴史的背景や社会的・文化的特徴について理解を深めています。当ゼミは 2016 年度より募集を再開した。

経緯より、ゼミ員各自にテーマに対して積極的に取り組む高い自主性を求めます。ここまでで当ゼミに疑問や興味を持たれた方、どうぞお気軽にお問い合わせください

い！

②サブゼミ

なし

③パートゼミ

なし

④インゼミ

例年 12 月に実施

⑤課外活動

なし

⑥三田祭

三田論発表

⑦夏休み

特に活動なし（課題あり）

⑧合宿

なし

⑨ゼミ必修授業

春 火曜 1 限 アジア経済史 a

秋 火曜 1 限 南アジア経済史 b

⑩経費

2000 円

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

なし

7.先生が担当している講義

日吉

経済史入門 I（春 金曜 2 限）

経済史概論 II（秋 水曜 4 限）

三田

アジア経済史 a（春 火曜 1 限）

南アジア経済史 b（秋 火曜 1 限）

8.ゼミ HP・SNS

なし

9.連絡先

中西聡研究会

—日本経済史—

1. 研究分野

本研究会では、19世紀から20世紀前半の日本経済を対象とします。その際、実証的研究を重視し、先行研究の書籍のみならず、統計資料・古文書など具体的な資料を利用して研究を進めます。もちろん、統計資料の扱い方や古文書の読み方は教員が指導しますので、技術的な予備知識は特に求めません。ただ歴史に強い関心をもって研究しようとする意欲は必要です。

教員の研究テーマは、近世（江戸時代）～近代（特に明治・大正時代）における日本の市場構造、商家経営、交通や消費生活に関することであり、代表的な著作として、中西聡『近世・近代日本の市場構造』（東京大学出版会、1998年）、中西聡『旅文化と物流』（日本経済評論社、2016年）等があります。

教員の研究スタイルとして、日本各地の旧家を訪れ、そこの蔵に所蔵されている古文書を長い時間かけて整理させていただき、それらを解説・分析して論文にまとめるという地道なフィールドワークを行っています。

2. 学生への要望

本研究会では、研究分野から考えて、根気と行動力が求められると思います。東京近郊の現地調査（博物館・資料館巡り）を研究会メンバーで一緒に行いますので、真剣に歴史研究をしてみたい方にはお勧めの研究会と言えます。ただし、期待した資料にすぐ出会えるわけではありませんので、卒業論文作成のためには、粘り強さが

何よりも求められます。そうした粘り強さは、学生諸君が社会人になった際に、必ずプラスになると思います。

なお、研究分野から考えて、卒業論文の作成にかなりの時間が取られると思われるので、卒業に必要な単位を順調に修得しており、3・4年次は、研究会での研究にそれなりの時間を割くことの可能な学生を望みます。

3. 選考について

a. 募集人数：10人程度

b. 選考内容

レポート(2000字程度)、面接(ゼミ員と教授の合同面接)、成績

c. 他学部入ゼミ、PEARL生受け入れの可否
他学部の入ゼミは可能ですが、PEARL生は受け入れておりません。

d. 選考基準

レポート、面接、成績で総合的に判断します。成績は研究会の活動への参加に支障がない程度であれば、十分です。

4. ゼミ構成員

4年生：男子10人、女子1人

(他学部0人、留学中0人)

3年生：男子9人、女子0人

(他学部0人、留学中0人)

5. 活動紹介

①ゼミ（水曜4、5限）

研究会の進め方は、文献講読と個別研究報告を組み合わせで行います。春学期は日本経済の歴史に関する基本的文献を輪読し、秋学期は個別研究報告を中心に進めます。

4年生になると卒業論文として「完成」させる研究テーマを選んでもらいます。研究テーマは、18世紀から第二次世界大戦後の高度成長期までの日本における経済に関するものであれば何でも構いません。4年生にはその研究テーマについての先行研究のフォローや自らの分析結果を含めて、より具体的な報告を求めますので、自分が本当に研究したいテーマを選んで下さい。

②サブゼミ (水曜5限)

希望者を対象に、基本的文献よりやや難しい専門書を読むサブゼミも開きます。

③パートゼミ

ありません。

④インゼミ

明治大学、駒沢大学とのインターゼミを実施していますので、3年生は三田祭発表に参加するとともに、インターゼミでも報告してもらいます。

⑤課外活動

フィールドワーク、博物館見学を年2~3回行います。

⑥三田祭

三田祭では三田論に論文を発表します。

⑦夏休み

各自研究に取り組みます。

⑧合宿

合宿等はありません。

⑨ゼミ必修授業

ありません。

⑩経費

ゼミとして何らかの形で会費を徴収することはありません。

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

特にはありませんが、読んだことのある経済史に関する本があると、レポートや面接

では役に立つと思います。

7.先生が担当している講義

日吉：歴史的経済分析の視点(春・水曜2限) 経済史入門Ⅱ(秋・水曜2限)

三田：日本経済史 a/b(春秋・金曜日3限)

8.ゼミHP・SNS

Twitter：@nakanishizemi20

9.連絡先

松沢裕作研究会

—日本社会史—

1. 研究分野

この研究会では、日本の近世・近代社会(19世紀・20世紀前半の日本社会)のあり方を取り扱う。

2. 学生への要望

経済学部生の皆さんは、これまでの学習を通じて、経済学の様々な理論やその現実への応用について学んでこられたものと思う。経済学の理論の明晰さ、またそれによる現実の分析の鋭利さは、人間が自分たち自身の社会を理解する上で獲得した、人類の貴重な知的遺産である。

しかし一方で、経済学理論の明晰さ、鋭利さに魅せられつつも、どこか現実の複雑さを前にして納得のいかない気分を抱えている人もいるのではないかと思う。そうした場合、歴史とその複雑さの世界に身を浸してみるのも、賭けてみる価値のある試みではないだろうか。

私たちの日常生活は些細な出来事の積み重ねでできている。史料を残した過去の人々という他者の声を謙虚に聞くこと、他者のかすかな声に耳を澄まし、そこに意味を見出していくことは、私たちが日常生活の中で出会う些細な経験をよりよく理解するために益するところがある。

しかし、そのように過去の人々と向き合うためには、現代に生きる私たちの側にもそれなりの準備が必要である。そのため、学生の皆さんには、なるべくたくさんの書籍や文献に目を通してほしい。在学中に徹底的に図書館を利用する事を強く要望したい。

また、担当教員は三田の専門科目「日本史史料講読」を担当しているが、本研究会参加者には当該科目の履修を求める。

3. 選考について

a. 募集人数：A・B日程計8人

b. 選考内容：レポート・面接

c. 他学部入ゼミ：可

PEARL生受け入れの可否：不可

d. 選考基準：レポートの課題となっている文献を正確に理解できているかどうか。

4. ゼミ構成員

4年生：男子6人、女子2人

(他学部1人、留学中1人)

3年生：男子5人、女子0人

(他学部0人、留学中0人)

5. 活動紹介

①ゼミ(火曜4・5限)

本年度春学期は湯澤規子『胃袋の近代食と人びとの日常史』(名古屋大学出版会、2018年)の輪読と、長野県下伊那郡の農民の日記『胡桃沢盛日記』の輪読をおこなった。『胡桃沢盛日記』については、今後も継続して読み進めていく予定である。

その後は三田祭論文の作成に取り組んでいる。三田祭論文の共通テーマについては、『三味線(を中心とした和楽器)の近代』となる予定である。

本ゼミの最終目標は、各自が自らのテーマを設定し、一次史料に基づく卒業論文を執筆することである。卒業論文テーマの設定は自由であるが、その研究方法は歴史学的なものであることが求められる。その際必要になるのは、史料の精密な読解であ

る。史料の書き手は現代の私達とは異なった環境の下に暮らしていた人々であり、私達の経験を安易に投影させてはそれを見誤る事に至る。

担当者の研究については、『自由民権運動』（岩波書店、2016年）が最も簡易なものである。また最近の著書として『生きづらい明治社会』（岩波書店、2018年）がある。その他の業績については

http://researchmap.jp/yusaku_matsuzawa/ を参照していただきたい。

②サブゼミ

なし

③パートゼミ

なし

④インゼミ

例年、他の経済史系のゼミとのインゼミを行っています

⑤課外活動

研究内容に応じて博物館などの巡検を行うことがあります。

⑥三田祭

毎年積極的に参加しています。今年度のテーマは『三味線(を中心とした和楽器)の近代』となる予定です。

⑦夏休み

例年、卒業論文の進捗報告を兼ねたゼミ合宿を行っています。また年度に応じ、親睦を深めるための様々な活動を行っています。

⑧合宿

毎年9月ごろに実施しています。今年度は足尾銅山を訪れました。

⑨ゼミ必修授業

- ・日本史史料講読(三田・春秋・火3)

⑩経費

年会費については特にありません。合宿などについては別途費用が掛かります。

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

入ゼミ試験のレポート課題で用いられる文献は毎年変わるので、後日発表される試験内容を参照してください。

7.先生が担当している講義

- ・歴史的経済分析の視点(日吉・春・金2)
- ・社会問題Ⅱ(日吉・秋・水5)
- ・社会史 a(三田・春・月2)
- ・日本史史料講読 a/b(三田・春秋・火5)

8.ゼミ HP・SNS

Twitter : @matsuzawasemi

HP :

<http://web.econ.keio.ac.jp/staff/yusaku/seminar.html>

9.連絡先

計量・統計

赤林英夫研究会

石井太研究会

片山翔太研究会

河井啓希研究会

田中辰雄研究会

長倉大輔研究会

中嶋亮研究会

中妻照雄研究会

星野正大研究会

赤林英夫研究会

—教育・労働・家族の応用ミクロ計量経済学—

1. 研究分野

日本を代表する教育経済学者である赤林英夫先生の下、ミクロ経済学を勉強しながら、主に教育、労働、家族の分析に応用しています。本研究会では、現実の問題を経済学的に発見し、統計的に分析する能力を身に付けることで、応用ミクロ計量経済学の視点、手法を獲得します。

2. 学生への要望

英語の文献を読み、英語でプレゼンテーションができることも重視し、動画や資料も積極的に利用して学習しています。教育、労働、家族といった分野に興味がある方、英語と数学によって自分の意見を伝える力を身につけたい方、ぜひ本研究会にお越しください。

3. 選考について

a. 募集人数：10人程度

b. 選考内容

面接、成績表、レポート

c. 他学部入ゼミ、PEARL生受け入れの可否
可

d. 選考基準

面接、成績表、レポート

4. ゼミ構成員

4年生：男子 1人、女子 3人
(他学部0人、留学中0人)

3年生：男子 3人、女子 3人
(他学部1人、留学中0人)

5. 活動紹介

①ゼミ (水曜4、5限)

②サブゼミ (曜 限)

なし

③パートゼミ

なし

④インゼミ

あり

⑤課外活動

なし

⑥三田祭

三田論あり

⑦夏休み

合宿

⑧合宿

あり。3年生は三田祭論文の中間発表、4年生は卒論の中間発表を行います。

⑨ゼミ必修授業

ミクロ経済学中級
計量経済学

⑩経費

Stata、合宿費

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

なし

7. 先生が担当している講義

家族と教育の経済学 a
労働経済論 a

8. ゼミ HP・SNS

ツイッター (赤林英夫研究会入ゼミ
2019)、Facebook (慶應義塾大学経済学部
赤林英夫ゼミナール)

9. 連絡先

石井太研究会

—人口論—

1. 研究分野

石井太研究会では、人口学について学んでいます。人口学 (Demography) とは、その名の通り人口を研究する科学ですが、研究形態としては、形式人口学あるいは方法論とも呼ばれる、数学・統計学的観点からの定量分析をコアとしつつ、社会学・経済学・生物学・医学等様々な学問領域を背景とした、学際的な研究が行われる学問です。さらに人口学は、国の経済政策や財政検証に用いられ、政策決定の基礎となっている学問でもあります。

人口学には形式人口学と実態人口学があります。形式人口学とは、方法論とも呼ばれ、人口変数及び変数間の相互依存関係の分析を中心としています。実態人口学は、人口理論とも呼ばれ、人口変数と外部との関係の分析を中心としています。

本研究会の活動内容としては、実態人口学と形式人口学を輪読とRの演習を通してそれぞれ学んでいきます。輪読では、各自の割り当てに沿って発表を行い、その後教授を含め全員での質疑応答とディスカッションを行います。その後、教授の講義ののちRの演習を行います。

2. 学生への要望

人口学では方法論がそのコアとなることから基礎的な数学・統計学の知識があること、Rによる実習を行うためPCを有しその扱いにある程度慣れていること、一定

の英語力があることが望ましい。また、研究内容の効果的な報告、学生同士の積極的な議論・交流も重視したいので、プレゼンテーション能力や自主的な研究会運営に関心のある学生も歓迎したい。

しかしながら、最も重要なのは、人口学に対する関心の強さ、研究に地道に熱心に取り組む姿勢、そして積極性である。人口学を学ぶには、細かいデータの丁寧な取扱い、生命表など人口学特有の方法論の習得、実体人口学分析に必要な幅広い分野の論文の読解など、忍耐強く努力を続けることが不可欠である。本研究会では、このような人口学に関心・熱を持った学生を待っています。

3. 選考について

a. 募集人数： 5人程度

b. 選考内容

事前レポート・筆記試験・面接・成績表

c. 他学部入ゼミ、PEARL生受け入れの可否

不可

d. 選考基準

レポートに基づく面接・筆記試験・成績表から、総合的に判断します。

4. ゼミ構成員

4年生：男子 人、女子 人

(他学部 人、留学中 人)

3年生：男子 4人、女子 0人

(他学部 人、留学中 人)

5.活動紹介

①ゼミ（水曜3、4限）

春学期には、主に輪読を通して実態人口学・形式人口学の両側面から、人口学の基本的な内容を学んでいきます。さらに、Rの導入から実際に動かす演習を行っています。

秋学期には、三田祭論文の執筆を主軸とし、Rの演習や三田論の報告をしていく予定です。

②サブゼミ（曜限）

今年度は行ってません。

③パートゼミ

今年度は行ってません。

④インゼミ

埼玉大学とのインゼミを予定しています。

⑤課外活動

特にありません。

⑥三田祭

三田祭論文を執筆します。

⑦夏休み

合宿を行います。

⑧合宿

9月に2泊3日の合宿を行います。

⑨ゼミ必修授業

人口論；春学期（月曜）1,2限

⑩経費

合宿費のみです。

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

特に必要ありませんが、直前期にはHPを参照していただくといいかもしれません。

7.先生が担当している講義

日吉：社会問題Ⅱ

三田：人口論

8.ゼミHP・SNS

ゼミHP：

<http://ishii-futoshi.sakura.ne.jp/index.html>

Twitter：@ishii_seminar

9.連絡先

片山翔太研究会

—統計科学，大規模データ解析，機械学習—

1. 研究分野

経済市場の動向調査やマーケティングなどを行う上で、いまや統計科学は欠かせないツールとなってきました。本研究会では、統計科学自体について深く掘り下げていきます。特に、「理論」と「応用」について研究を行います。「理論」というのは例えば、ある統計・機械学習手法の数理的な性質を調べたり、手法間の関連性を明確にしたりすることを差します。一方で「応用」では、興味のあるデータに対して適切な分析手法を新たに構築したり、複数の分析手法を組み合わせでより良い解析を目指したりします。

研究対象は特に限定しません。因果推論/統計的推測/スパース推定/グラフィカルモデリング（理論）や、株価データ解析/広告効果の予測/自然言語処理による経済分析（応用）など、興味のある分野から自由にチャレンジできます。参考までに、私が現在興味を持っている研究内容は、機械学習による因果推論です。もし興味が合えば一緒に研究を進めましょう。

本研究会では具体的に、数理統計に関するテキストの輪読や、統計・機械学習手法の実践的な（R や Python による）勉強を進めます。上に挙げたように、統計科学の研究対象は多岐に渡ります。そのためパートゼミで、学生さんの興味のあるテキストや論文を、複数人でのディスカッションを交えながら読み込んでいきます。

2. 学生への要望

前述の「理論」と「応用」の両方に興味を持って来て貰えればと思います。どちらか一辺倒にならず、バランス良く学習していきましょう。本研究会では考えることを特に重視します。研究を進めるためには、対象についての深い理解が必要不可欠です。理解できるまで考え抜かなければ研究は進みません。また、ディスカッションも重要視します。自分の考えを相手に伝え、そして相手の意見を聞き入れながら研究を進めていきます。そのため、以上の2点に苦手意識がないことを求めます。

3. 選考について

①募集人数：5～10人程度

②選考内容：面接・成績表・願書

③他学部入ゼミ、PEARL生受け入れの可否：どちらも可

④選考基準：

面接、成績表、願書で総合的に判断します。面接では、本研究会で研究・勉強したいことを7分程度でプレゼン（形式は自由）してもらいます。問題設定、計画性、説明の分かりやすさを特に重視します。なお、入ゼミ後に興味の対象が変わっても全く構いません。

4. ゼミ構成員

3年生：男子4人、女子1人

（他学部0人、留学中0人）

5. 活動紹介

①ゼミ（水曜 4,5限）

数理統計に関するテキストの輪読や、

統計・機械学習手法の実践を行っています。具体的には『Introduction to Mathematical Statistics』や『An Introduction to Statistical Learning: with Applications in R』などの本を用い、基礎を重視した理論の習得、演習による手法の体得を進めています。何か疑問点があればすぐに質問することができ、この分野に精通された先生により、一人ひとりに応じてきめ細やかな対応を受けられるのが、少人数の当ゼミ最大の利点です。来年度からは4年生による研究紹介や、その進捗状況の発表も行う予定です。

②サブゼミ（不定期）

学外コンペに参加する場合、期間を限定して実施する場合があります。

③パートゼミ

個人の関心のあるテーマ（統計科学に関連するものであればテーマは自由）について、それに準じたテキストや論文を先生を交えながら少人数で読み進めています。パートゼミは任意参加であり、曜日・時間・頻度は先生と相談の上決定することができます。

④インゼミ

特に予定していません

⑤課外活動

ソフトボール大会への参加や、不定期の懇親会などがあります。

⑥三田祭

3年生が参加するかを決めます。今年度は参加していません。

⑦夏休み

学外コンペに参加する場合は各自で集まって活動する場合があります。また参

加者の希望に応じてパートゼミが行われる場合があります。

⑧合宿

今年度は初年度につき行っていませんが、来年度は希望に応じて行います。

⑨ゼミ必修授業

特にありません。

⑩経費

教科書代、懇親会費等。

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

特にありません。

7.先生が担当している講義

統計学 I・II（日吉、金曜4限）

8.ゼミ HP・SNS

<https://katayama0laborator.wixsite.com/home>

9.連絡先

河井啓希研究会

—計量経済学、産業組織論—

1. 研究分野

私の研究会では「応用マイクロ理論に基づく実証分析」についての研究を行います。

近年のマイクロ経済学では、従来の理論では出てこなかった製品の品質、財の差別化、情報の非対称性といった問題を明示的に取り上げた研究が盛んとなっています。一方、計量経済学では企業や家計の詳細なマイクロデータの蓄積から、質的選択モデル、パネル分析、セミパラメトリック推計等の新しい分析手法が開発されています。

従来、計量経済学はマクロモデルに代表される景気や経済成長の大まかな推測に利用されてきましたが、近年では上記の理論とデータの蓄積からより具体的な政策評価に利用されています。例えばアメリカでの通信産業や航空機産業自由化等の政策決定においてたくさんの実証研究が報告されています。

私の研究会では2年間のゼミナールを通して、応用マイクロ理論、計量経済学理論、コンピュータ等の分析手法の基礎的なトレーニングを行います。最終的には、学生の皆さんが疑問に感じた政策的な問題を経済理論に基づいて解釈したうえで、実証分析を前提とした具体的な政策提言をできるまでのお手伝いをしたいと思っています。

今年度は、企業の戦略に関する本の輪読を行いました。各章で登場するトピックに合わせて、自然独占と最適規制、同質財寡占市場とカルテル形成、製品差別化と市場支配力、価格差別、情報非対称性、標準化とネットワーク等といった産業組織論の理

論についても取り上げます。3年生は、三田で開講されている計量経済学中級ならびに上級を履修し、研究会ではその授業で学んだ手法を応用して書かれた研究論文を読んでいます。

2. 学生への要望

理論的な興味ばかりでなく政策的な問題意識を持ち、自分で実証分析をやってみたいという意欲的な学生を募集します。しかし自分でやりたいテーマを現段階で持っていなくとも結構です。ゼミ活動を通じて必ずテーマを見つけることができます。日吉ではマイクロ経済学、マクロ経済学、統計学をしっかり勉強してきてください。計量経済学のゼミなので、計量経済学概論や情報処理についてご存じならばより望ましいです。

3. 選考について

a. 募集人数：16人程度(AB両日程)

b. 選考内容

A日程 筆記試験(マイクロ経済学・統計学、90分)、成績表、面接

B日程 成績表、面接

c. 他学部入ゼミ：可

PEARL生受け入れ：可

d. 選考基準：最低限の知識と意欲

4. ゼミ構成員

4年生：男子16人、女子6人
(他学部0人、留学中0人)

3年生：男子15人、女子6人
(他学部0人、留学中0人)

5. 活動紹介

①ゼミ(水曜4・5限)

春学期は、「戦略の経済学」という産業組織論に関する本を輪読しました。主に4限では、章ごとに割り当てられた3年生がプレゼンを行い、教授やゼミ生が質疑応答をしながら理解を深めました。5限では、需要関数や費用関数等の研究論文を先生自ら紹介してくださいました。秋学期には3年生の三田論文と4年生の卒業論文の中間発表が行われます。

②サブゼミ（曜限）

サブゼミは基本的にありませんが、3年生にStata講習会に参加し、統計ツールの扱いに習熟します。

③パートゼミ

三田祭論文のパートごとに集まり、研究を行います。

④インゼミ

なし

⑤課外活動

なし

⑥三田祭

毎年1パート4~5人に分かれてテーマに基づく実証分析を行い、論文を執筆します。今年は、農業、製造業、医療などの様々な分野について研究を進める予定です。

⑦夏休み

パートゼミの内容を夏休みも同様に行い、合宿で中間発表を行います。

⑧合宿

9月中旬に2泊3日の夏合宿を行います。3年生は三田論文、4年生は卒業論文の中間発表を行います。今年度は草津に行きました。

⑨ゼミ必修授業

計量経済学中級(春集)

計量経済学上級(春秋)

産業組織論(春秋)

⑩経費

合宿費 30,000円弱 その他

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

新世社「演習ミクロ経済学」

7.先生が担当している講義

日吉：統計学 I II (春秋・水曜 2限)

三田：計量経済学上級(春・金曜 2限)

8.ゼミ HP・SNS

Twitter @kawaisemi2020 9.連絡先

9.連絡先

田中辰雄研究会

—計量経済学、IT 産業の実証分析—

1. 研究分野「情報産業の実証分析」

本研究会では情報化をテーマとして、計量分析の基礎と応用を学びます。

情報化とは、情報の収集・処理・配信の技術が飛躍的にあがり、それが社会のさまざまな領域に使われていくことを指します。この情報化の影響はさまざまな領域に及びます。いくつか挙げてみましょう。

第一に、世界的大企業の大半が情報産業の企業になりつつあります。時価総額のトップはかつて IBM や GM あるいは銀行などでしたが、今や上位に並ぶのは Google, Apple, Facebook, Amazon などの IT 系企業です。

第二に、需要が「モノの保有」から「情報あるいはサービスの利用」にシフトしています。ここ 20 年、車や家電などモノの需要は頭打ちです。それに代わって伸びているのは、情報そのものであるコンテンツ産業(映画・音楽・ゲームなど)への支出、そしてシェアリングサービスやスポーツなど時間消費型のサービスへの支出です。いまやトヨタですら自動車を利用した移動サービスの供給を考える時代です。

第三に、これに伴って、従来型の産業は縮小あるいは変革を余儀なくされています。新聞・テレビはネットニュースと YouTube に客をとられ、ショッピングセンターはネット通販に食われ、都市銀行はネット系の決済サービスに押されています。

本研究会では、このような情報化の経済現象を実証分析することを目的とします。

2. 学生への要望

広い意味での情報産業のどこかの分野に興味がある人か、計量分析に興味のある人を歓迎します。

興味関心はごく一部の領域でよいです。ゲームや音楽が好きでもよいし、スマホが好きでも構いません。むしろ AI の利用に関心がある、ベンチャーで当てたいと思っているもよいでしょう。情報産業のどこかに関心を持っているとゼミは楽しくなるでしょう。

また、特定の関心がなくても計量分析の実際の利用に関心がある人も来るとよいでしょう。昨今はネットのおかげで莫大なデータが利用可能になり、企業はデータがあっても利用できずに捨てている状態です。それゆえデータを有効活用できるデータサイエンティストを求めています。計量分析はその基礎を与えるのでそれを学びたい人も歓迎します。

本研究会が対象にするのは先行研究の少ない分野であり、学生の立場でも新しい知見を見出すことは不可能ではありません。そのような挑戦をしようというパイオニア精神のある人を期待します。また大学院進学希望の人も歓迎します。

3. 選考について

a. 募集人数：16 名前後

b. 選考内容 レポート+面接+成績表
筆記試験はなし

レポートは課題を秋に掲示板に張り出す。
締め切りは A 日程の面接の一週間前

c.他学部入ゼミ、PEARL 生受け入れの可否
可

d.選考基準

レポート 7 割、面接 2 割、成績表 1 割

4.ゼミ構成員

4 年生：男子 13 人、女子 3 人

(他学部 0 人、留学中 1 人)

3 年生：男子 12 人、女子 4 人

(他学部 1 人、留学中 0 人)

5.活動紹介

①ゼミ (水曜 4,5 限)

4~6 月は IT 産業や計量分析手法に関する専門論文の輪読を行います。そのあとはテーマごとに 3,4 人の班に分かれて三田論を書き進めます。

②サブゼミ (水曜 6 限)

参加自由でプログラミングを学びます。

③パートゼミ

特になし

④インゼミ

特になし

⑤課外活動

特になし

⑥三田祭

三田論の発表を行います

⑦夏休み

各自論文作成のための作業を行います。

⑧合宿

4 月:新刊合宿

9 月:夏合宿

⑨ゼミ必修授業

計量経済学中級 a,b(火曜 1,2 限 春集中)

⑩経費

ゼミ費 1000 円

合宿費 計 30000 円程度

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

特になし

7.先生が担当している講義

日吉：計量経済学概論 (春・水曜 2 限)

三田：計量経済学中級 a,b (春・火曜 1,2 限)

8.ゼミ HP・SNS

Twitter：@ttzemi2020

9.連絡先

長倉大輔研究会

—計量経済学、時系列分析—

1. 研究分野

計量経済学、時系列分析

プログラミング

2. 学生への要望

プログラミングは初心者もいるので事前の知識は問いません。研究分野に興味があり、やる気がある方はぜひ来ててください。

3. 選考について

a. 募集人数：10～15人

b. 選考内容

筆記試験、面接、成績表、レポート

c. 他学部入ゼミ、PEARL 生受け入れの可否

他学部生可、PEARL 生は不可

d. 選考基準

上記の選考内容の総合評価での決定になります。

4. ゼミ構成員

4年生：男子11人、女子0人

(他学部1人、留学中1人)

3年生：男子10人、女子1人

(他学部0人、留学中0人)

5. 活動紹介

①ゼミ（金曜4,5限）

今年度は4限に計量経済学に関する本の輪読、5限にプログラミングの勉強をしています。

②サブゼミ（金曜6限）

ゼミ生主体でpythonの勉強をしています。

③パートゼミ

なし

④インゼミ

なし

⑤課外活動

なし

⑥三田祭

自由にテーマを選び、グループで三田論を書きます。

⑦夏休み

なし

⑧合宿

三田論

⑨ゼミ必修授業

時系列分析 a (今年は金曜2限)

⑩経費

輪読用の本及び合宿費

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

統計の教科書

7. 先生が担当している講義

日吉：計量経済学概論(PEARL)

三田：時系列分析 a

8. ゼミ HP・SNS

ゼミ HP

<https://nagakurastatisticsfrom2011.jimdo.com/>

Twitter

@nagakura_2019

9. 連絡先

中嶋亮研究会

—ミクロ計量経済学—

1. 研究分野

①教員の研究分野

私の研究テーマは社会的相互作用の実証分析で、人々が市場を超えたチャンネルで互いに影響しあうメカニズムと、その相互作用から発生する外部経済性をデータで検証することを行っています。詳しい研究内容については経済学部 WEB サイトの教員紹介ページとリンクされた私のホームページをご覧ください。

②ゼミでは何を行うのか？

経済実証分析の基礎的な手法を身に着けることで、データの背後にある経済原理を論理的に理解する能力を身に着けることを目的とします。

まず、計量経済学の教科書や経済学に関連した一般書の輪読を行い、経済実証分析の基礎的な手法を学習します。

次に、3年生では、少人数(例年4人程度)のグループ研究を通じて、現実の経済・社会問題に計量経済学の分析ツールを適用し、世にあふれる様々な仮説を検証する方法について実践的に学習します。三田論論文コンクールでその成果を発表することが求められます。4年生では、自らが行った経済実証分析で明らかになった発見をもとに論文の主張を説得的かつ論理的に論述することを学びます。その成果を卒業論文として提出することがゼミ単位取得の必須要件です。

三田論と卒論で実施する経済実証分析の内容は指導教員である私の研究テーマ

と一致する必要はありません。また、私

がゼミ生に分析対象を指定することはありません。学生は自ら設定した問題に自分なりの解答を見いだすために、データを集め、適切なツールを使って分析することが求められます。

2. 学生への要望

このゼミでは「わかっていること」(知識)より「わかろうとすること」(意欲)を大切にします。よって、「わかろうとする」努力をする学生を歓迎します。具体的に以下のような学生を希望します。

a)常識を疑い、それを自ら検証することを厭わない学生—「世間ではXXって言われているけど、それホント？よく分からないけど、とりあえずここから調べよう。」という健全な懐疑と迅速な行動を持つ学生を優遇します。

b)自ら調べて学ぶことができる学生—私は研究者であります、良い教育者ではないようです(教育免許もありません)。ゼミでは実証分析の手法と経済学的な考え方を伝授しますが、三田論・卒論を執筆するためにはそれだけでは不十分です。不足部分は自ら学習する必要があります。私は求められれば手助けしますが、こちらから手取り足取り指導することはありません。

c)無駄を楽しめる学生—ほとんどの学生にとって実証経済分析の手法は将来のキャリアには役に立たないでしょう。ゼミでの学習が就職活動に有利に働くこともなさそうです。よって、ゼミの活動は「無駄」のように思えるかもしれません。しかし、長い人生「無駄」もたまには必要で

す。無駄な努力も、それはそれでオモロイ
と思うことができる人材を求めます。

d)大学院志望の学生も若干名募集してみたく
なりました。皆が研究志向である必要は
ありません。これまでのゼミ生もほとんど
が就職希望でした(おそらく来年度もそう
でしょう)。ただゼミには多様性があつた
方が良いでしょう。

3.選考について

a.募集人数：A・B 日程で 10～15 人

b.選考内容：研究計画書の提出とレポート課
題、及び面接。志願者は自分がゼミで実施し
てみたい実証分析内容を記した簡単な研究計
画書を提出する必要があります(フォーマッ
トはこちらで用意します)。また、これ以外
にレポート課題の提出もあります。提出した
研究計画と課題内容についてメールで問い合
わせすることがあります。成績表の提出は不
要です。

c.他学部入ゼミ、PEARL 生受け入れの可否
他学部 可

PEARL 生 受け入れ可(但し、日本語で参加
可能な場合に限る)

d.選考基準

入ゼミ希望者の関心、意欲、知性などを総合
的に判断し、主観的に選考を行います。

4.ゼミ構成員

4 年生：男子 12 人、女子 4 人

(他学部 0 人、留学中 0 人)

3 年生：男子 9 人、女子 6 人

(他学部 0 人、留学中 0 人)

5.活動紹介

① ゼミ(水曜 4、5 限)

経済実証分析の手法を主に学んでおり、統計
分野と経済分野の 2 種類の本を輪読しプレゼ
ンしています。今年は「美貌格差一生まれつ

き不平等の経済学」(和訳書)また、「An
Economist Walks into a Brothel」(英語原書)
を読みました。3 年生は三田論の発表、4 年
生は卒論の発表も行います。

② サブゼミ(曜限)

なし

③ パートゼミ

なし

④ インゼミ

前期では経済学部の松浦ゼミとインゼミを行
いました。後期では一橋大学や早稲田大学の
ゼミとインゼミを行う予定です。商学部との
インゼミにも参加します。

⑤ 課外活動

学期末などに飲み会を開催しています。自由
参加ですが参加率はとても高いです。

⑥ 三田祭

3 年生が三田祭論文を作成し、出展します。

⑦ 夏休み

夏休みの間にゼミ合宿を行います。詳しくは
下記をご覧ください。

⑧ 合宿

今年は千葉県でゼミ合宿を行いました。3 年
生は三田論を、4 年生は卒論を進めました。
また、外部講師の方をお呼びし、表現力につ
いてのワークショップも行いました。

⑨ ゼミ必修授業

(ア)産業組織論 a(春・水曜 3 限)

(イ)Stata 演習(春・火曜 3、4 限)

⑩ 経費

(ア)ゼミ費：3000 円程度

(イ)合宿費：15000 円程度

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

課題の本が指定されるので、対策として利用
した本はありません。

7.先生が担当している講義

日吉：計量経済学概論(秋・水曜 2 限)

三田：産業組織論 a(春・水曜 3 限)

8.ゼミ HP・SNS

Twitter(入ゼミ) @nakajimaryo2020

Twitter(日常) @nakajimasminar

Instagram @nakagymseminar

HP

[https://keionakajimaryoseminar.amebaownd.](https://keionakajimaryoseminar.amebaownd.com/)

[com/](https://keionakajimaryoseminar.amebaownd.com/)

入ゼミ Twitter の DM にて質問等を受け付けています。

9.連絡先

中妻照雄研究会

ーフィンテックとデータサイエンスー

1. 研究分野

中妻照雄研究会（以下、中妻ゼミ）では、フィンテックとデータサイエンスを勉強しています。フィンテック（fintech）は finance + technology を意味する造語で、金融サービスに最新の情報通信技術を融合させて新しい価値を創造することを目指す学際的な研究領域です。一方、データサイエンスは、ベイズ統計学や機械学習などの手法を駆使して膨大なデータ（ビッグデータ）から有用な情報を取り出して実務に役立てることを目指す学問です。中妻ゼミの目標は、ゼミで学んだ知識を生かしてビジネスの世界で即戦力として活躍できる優秀な人材を輩出することです。ゼミでは、データを使った実証分析全般の中から比較的自由に研究テーマを選べます。3年生で三田祭論文を、4年生で卒業論文を単著で執筆します。一人で学術的な論文を書き上げるのは大変労力のかかる作業ですが、学生の皆さんにとって貴重な経験となるでしょう。中妻ゼミの活動の中心は、本ゼミ、サブゼミです。新歓合宿や夏合宿、OB-OGを招いての交流会、実務家を招待しての講演会など様々なイベントも行う予定です。

2. 学生への要望

中妻ゼミでは好奇心旺盛で常に向上心を持って自発的に勉学に勤しむ学生を求めています。中妻ゼミを志望する学生は、金融に関する基礎的概念（金利、債券、株式、証券市場、外国為替レートなど）を理解していることが必須です。特にデータサイエンスに関心がある人は、数学とプログラミング

の勉強をしっかりと行う心積もりで中妻ゼミに参加してください。そして、日吉で学んだ統計学や計量終済学概論の内容をしっかりと理解しておいてください。企業の財務分析を学ぶ上では高度な数学は必要ありませんが、企業価値などの計算で必要になるので表計算ソフトの使い方は最低限勉強してください。当然、財務諸表の数字の意味をきちんと理解できるだけの会計に関する知識を身につけることも必要です。また、実務においても研究においても、英語が堪能であることが要求されます。中妻ゼミでは英語で三田祭論文や卒業論文を執筆するぐらいの気概のある人を歓迎します。また、大学院進学、特に海外への留学を希望する人も大歓迎です。

3. 選考について

a. 募集人数 15人程度

b. 選考内容

学習計画書、成績表、レポート課題とその発表、面接

c. 他学部入ゼミ、PEARL生受け入れ可。

d. 選考基準

学習計画書、レポート課題、面接などでファイナンスとデータサイエンスに関する基礎知識、研究会に参加する目的意識や、人物などを総合的に判断して可否を決定します。

4. ゼミ構成員

4年生：男子11人、女子5人

（他学部1人、留学中0人）

3年生：男子12人、女子4人

（他学部3人、留学中5人）

5.活動紹介

①ゼミ（金曜4,5限）

講義の一環として行われ、学生による学術論文の報告とディスカッションで構成されます。国際社会で不可欠な「英語で学び、英語で発信する」能力も向上させるために、英語の学術論文のプレゼンテーションや英語での論文執筆なども有志で行っています。

②サブゼミ

サブゼミへの参加は自由ですが、有志が集まってベイズ統計学、機械学習、プログラミングなどの勉強会を行っています。

③パートゼミ

昨年度のリクルーティングは3つのパートに分かれていました。（本年度未定）コーポレートファイナンス（企業金融）パート、データサイエンスパート、Fintechパート

④インゼミ：なし

⑤課外活動

Bloomberg Investment Competition

CFA Institute Research Challenge

⑥三田祭

中妻研究会では3年生で三田祭論文を単著で執筆します。

⑦夏休み

投資銀行・コンサルティングファームでのインターンを通じて、各ゼミ生が投資・企業分析・フィンテック・コンサルティングの最前線を学び、情報を共有しています。

⑧合宿

4月の新歓合宿と9月の夏合宿

⑨ゼミ必修授業：なし

⑩経費

経費年会費は特になく、合宿費は年によっ

て変動します

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

「道具としてのファイナンス」石野雄一

「MBAバリュエーション」森生明

7.先生が担当している講義

日吉：

自由研究セミナー(PEARL)【春・水曜3限】

自由研究セミナー【秋・水曜3限】

三田：

確率・統計 ab【春秋・火曜2限】

フィンテックとソーシャル・インフラストラクチャー a b【春秋・金曜2限】

フィンテックの理論と実践 a【春・月曜3限】

b【秋・火曜1限】

8.ゼミ HP・SNS

nakatsuma.com

9.連絡先

星野崇宏研究会

——計量経済学・機械学習・行動経済学とその応用

(マーケティングや経営、社会現象について) ——

1. 研究分野

指導教員はこれまで統計学・計量経済学・機械学習の基礎研究と、マーケティング・行動経済学・脳科学・公衆衛生など様々な分野への応用研究を行ってきました。また、様々な分野の企業の顧問や共同研究を行っており、その関係から企業から提供いただいた実店舗の購買履歴データ、Web サービスでの利用履歴データ、市場調査データや SNS データなどを研究室で利用することが可能です。さらに店舗や EC サイトでのフィールド実験、学生を対象とする調査や経営者・担当者へのインタビューなどを実施する場とノウハウを研究室として有しています。

このような経緯から当研究会では、基礎的な研究だけでなく企業や公共分野のマーケティング応用など、より実践的な研究に関心のある学生も歓迎しており、理論と実践を両立し、磨きあう場となることを目指しています。当研究会では下記に記載する分野に関心のある学生を指導可能です。

【基礎的な分野】

統計学と計量経済学/いわゆるビッグデータ解析（統計学と機械学習の中間領域）/行動経済学と心理学（ヒトの非合理性と行動の傾向の理解）

【応用的な分野】

マーケティング:対象は金融、消費財メーカー、小売業、Web サービス、政府公共機関、NPO、音楽事業など/行動経済学の応用:特に企業・組織の経済学や、公共マ

ーケティングへの応用/人的資源管理や組織行動などの経営学/流行や同調などの社会現象の経済学的理解/教育や医療など応用計量経済学

上記はバラエティに富んでいますが、データ・統計学・数理モデルなど実証的なアプローチを用いた経済・経営・人間行動の研究についてであれば対象は限定しません。

2. 学生への要望

経済のグローバル化と技術革新、産業構造の変化のペースは一段と早くなっており、今後本学部を卒業しても将来が完全に保証されるわけではない時代が来るでしょう。所属する組織がどこであれ自分の力で活躍し、所属組織さらには社会に貢献する有為な人材として育てていただくために、当研究会では時代によらず必要とされる力を身につけてもらいたいと思います。

3. 選考について

a. 募集人数: 行動経済マーケティング班・解析班合わせて 18 名程度

b. 選考内容

ES・レポート・面接・成績表

c. 他学部入ゼミ、PEARL 生受入の可否

他学部可・PEARL 生受け入れ可

(但し、日本語で参加可能な場合に限る)

d. 選考基準

各自の関心事項に対して学び実践する意欲と積極性を重視します。(マーケティングなど実践的な内容に関心のある学生と、統計学やビッグデータ解析に関心と適性のあ

る学生)

4.ゼミ構成員

4年生：男子10人、女子8人（他学部3人、留学中0人、留学終了4人）

3年生：男子10人、女子8人（他学部2人、留学中1人、留学終了2人）

5.活動紹介

①ゼミ（火曜3・4限）

マーケティングや行動経済学、計量経済学の基礎を講義で学ぶと共に、プロジェクトごとに研究方針話し合い等を行います。

②サブゼミ（火曜5限）

ゼミの続きとしてプロジェクトの話し合いを行います。また、適宜勉強会を行います。

③パートゼミ

解析班・マーケティング班

④インゼミ

今年度の開催は未定です。

⑤課外活動

企業との共同研究、データ解析/マーケティングコンペへの参加などを行います。

現在進行中の共同研究は次の通りです。

- ・レセプトデータを活用した健康受診を促す行動変容実験（各自治体等）
- ・センサーと実験課題を用いた行動経済学に関する研究（トヨタ自動車）
- ・AIと会計職に関する研究（日本公認会計士協会）
- ・クラウドファンディングの投資行動と投資額向上（日本クラウドキャピタル）
- ・事業継承へのナッジ活用（中小企業庁）
- ・営業実績データを用いた人材評価モデルの策定（富士ゼロックス）
- ・ファンのSNS構造を考慮した最適なプロモーション（ソニーミュージック）
- ・来店者の属性に応じた最適広告配信（キ

リン・ローソン等）

⑥三田祭

論文の発表や展示を行います。2015、2018年三田祭論文金賞、2017年は同銀賞を獲得しました。

⑦夏休み

プロジェクトによっては研究を進めます。

⑧合宿

夏休みに行います。2019年度は9月に伊東で2泊3日の合宿を行いました。

⑨ゼミ必修授業

ゼミとしての必修授業はありません。

⑩経費

ゼミ費3000円、合宿費3万円程度

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

特にありません。

7.先生が担当している講義

ベイズ統計学（三田・春秋・火曜2限）

計量経済学中級（三田・春・水曜3,4限）

8.ゼミHP・SNS

ゼミHP <https://hoshinoseminar.com/>

ゼミTwitter @hoshinoseminar

9.連絡先

産業・労働経済

石橋孝次研究会

植田浩史研究会

太田聰一研究会

石橋孝次研究会

(ミクロ経済学・産業組織)

1. 研究分野

本研究会ではミクロ経済学を軸として、企業と市場の経済学である産業組織の研究を行う。

研究の目的は、現実の多くの企業は少なからず市場支配力を持つこと、また現実の経済活動はほぼ例外なく不完全もしくは非対称な情報の下で行われることを念頭において、市場メカニズムの限界と是正策を明らかにすることである。この目的のためには、他の経済学の分野と同様、理論分析と実証分析の両方が必要になる。理論は経済問題を理解し解決策を探るためにあるという意味で、現実の経済問題との接点を見失った理論は健全ではないし、他方理論を軽視した実証分析も同様に健全ではないと考えている。

産業組織 (Industrial Organization) とは、不完全競争市場での企業行動の分析や需要の分析を通じて社会的に望ましい競争政策のあり方を考察する学問である。それと同時に、ビジネススクールなどに設置されている経営戦略論の基礎となっている学問でもある。より具体的に言えば、独占企業や寡占企業の価格戦略・品質や広告などの製品差別化行動・イノベーションと技術革新・企業の合併や統合・参入阻止などの問題について、ミクロ経済学に基づいて分析を行う分野である。また、産業組織で主役となる主体は企業であり、企業の経営・組織・財務を考察する広い意味での企業理論は産業組織と密接に関わっている。本研究会では、ミクロ経済学と計量経済学を分

析用具としながら、企業理論を含んだ産業組織の理論・実証研究を行う。

2. 学生への要望

日吉ではミクロ経済学、マクロ経済学、数学、統計学、英語をできるだけ十分に学習しておいてほしい。これらは三田の授業やゼミでの学習にとって必要であるだけでなく、社会に出てからも非常に有用な知識になる。

* 楽しく活動できる人を待っています！

3. 選考について

a. 募集人数：15名程度

b. 選考内容：筆記試験 (ミクロ経済学；持込不可) および面接

c. 他学部入ゼミ：不可

PEARL 生受け入れ：不可

d. 選考基準：筆記試験 (90%程度)

面接 (10%程度)

* 日吉での成績は問いません！

4. ゼミ構成員

4年生：男子3人、女子1人

(他学部0人、留学中0人)

3年生：男子16人、女子0人

(他学部0人、留学中2人)

* みんな仲良しです！

5. 活動紹介

①ゼミ (月曜45限)

産業組織に関するテキスト (日本語と英語) と論文を用いたプレゼンを行う。

②サブゼミ (木曜5限)

PC室で実証分析に必要な計量経済学の理論の学習と統計ソフト stata の演習を行う。

③パートゼミ

4人程度のグループに分かれて、三田祭論文に向けて活動する。

④インゼミ

なし

⑤課外活動

- ・毎月の先生を交えた飲み会
- ・ソフトボール大会
- ・OB・OG会

⑥三田祭

パートごとに論文を発表

⑦夏休み

卒論、三田論準備

⑧合宿

夏合宿（9月）

3年生は三田祭論文、4年生は卒業論文の中間発表をそれぞれ行う。先生からのアドバイスやゼミ生同士の指摘によって論文の内容を深める。勉強後はフットサルやバスケットといったレク、夜には飲み会が開催される。

⑨ゼミ必修授業

- ・マイクロ経済学中級Ⅱab（春秋 水曜2限）石橋孝次先生/玉田康成先生
 - ・産業組織論 ab（春秋 水曜3限）中嶋亮先生/石橋孝次先生
 - ・計量経済学中級 ab（春集中 火曜1、2限）田中辰雄先生
- *三田の基本科目12単位がぴったり埋まります！

⑩経費

教科書 10,000円程度

夏合宿 30,000円程度

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

- ・神取道宏（2014）「マイクロ経済学の力」
日本評論社

・武隈慎一（1994）「演習マイクロ経済学」
新世社

*ゼミHPにて連取問題と過去問3年分を公開中！

7.先生が担当している講義

日吉：マイクロ経済学初級

三田：マイクロ経済学中級、産業組織論

8.ゼミHP・SNS

・ゼミHP

<http://ishibashizemi.weblike.jp>

・ゼミTwitter @ishibashi_2020

*ゼミHP新しくしたので是非ご覧ください！

*ゼミに関して質問等ありましたら

Twitterアカウントまでお気軽に連絡ください！

9.連絡先

植田浩史研究会

—産業論・企業論・中小企業論—

1. 研究分野

植田浩史研究会では、日本や海外の産業、企業についての研究を文献や実際の企業訪問などを通じて行います。研究会での勉強や経験を通じて、現実の産業、企業、技術に対して歴史的視点、現状分析的視点、国際的視点から考察していきます。企業や産業・地域の現場で起きていることを知ると共に、そこで起きている問題を正確に理解し、多面的かつ論理的に分析していく力をつけていくことを課題としています。

普段のゼミでは国内外の産業や企業に関する文献を輪読し、具体的な問題から日本経済や世界経済の現状・課題について議論をしています。

また、夏休み中に実施される2回の合宿を通して地域の企業を見学し、経営者の方々からお話を聞く機会が設けられています。このようなフィールドワーク・地域調査を通して企業や産業の実態を肌で感じられるのがこの研究会の一つの特徴です。

2. 学生への要望

まず、現実の産業や企業の動向に関心を持ち、何事に対しても深く突っ込んで考え、調べていくこと、そしてそのための労を厭わないことを要望とします。

予習や宿題は必ず行い、毎週の参加はもちろんのこと、議論には積極的に参加することが求められます。

また、サークルとは異なり、ゼミでは仲間と一緒に学びながら勉強を進めていく場です。仲間と一緒に勉強していくことは、

学問する上ではもちろん、新しい友達を作っていく上でも非常に大切な場所です。

研究会に参加する2年間は、決して長いものではありませんが、人生の中で最もいろいろなことをじっくり考えられる期間です。この2年間に、できる限り多くのものに接し、沢山のことを学び、考えてもらいたいと思っています。

3. 選考について

a. 募集人数 15名前後

b. 選考内容

例年、入ゼミ希望者に対して1万字程度のレポートを提出してもらっています。その上で、レポートの内容を参考にした面接を行なっています。来年度についても、同様の形式で選考を行う予定です。但し、レポートの課題や字数は異なる可能性があるので注意してください。また、レポートの内容や研究会活動への意欲を確認するなどの目的で、面接を実施しています。選考はこのレポートと面接の総合評価で行います。

c. 他学部入ゼミ、PEARL生受け入れの可否
不可

d. 選考基準

産業・企業に対する関心の高さや経済学や社会に対する知識は不可欠です。また勉強への意欲、ゼミ活動や共同研究への積極的な参加への強い意思が問われます。

4. ゼミ構成員

4年生：男子 11人、女子 8人

(他学部 0人、留学中 3人)

3年生：男子 15人、女子 10人

(他学部 0人、留学中 3人)

5.活動紹介

①ゼミ (金曜 4、5限)

当ゼミでは、経済や経営に関する本を輪読し、本に関する内容や現実に則した具体的で身近なデータを用いてゼミ員全員で討論を行います。また、産業や企業の現実態を学ぶためにフィールドワークを積極的に行い、経営戦略などについて研究します。輪読だけでなく貴重な経験をつむことができることが当ゼミの魅力です。植田ゼミに興味を持ってくださった方はぜひブースに足を運んでください！

②サブゼミ (月曜 4、5限)

③パートゼミ

④インゼミ

⑤課外活動

論文作成の資料集めや、中小企業論の理解を深めるため、様々な中小企業が参加する展示会などに見学に行きます。

⑥三田祭

ゼミブースの展示を行います。

⑦夏休み

⑧合宿

3年生だけの合宿 (8月)

3、4年の合同合宿 (9月)

⑨ゼミ必修授業

なし

⑩経費

8万円程度

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

なし

7.先生が担当している講義

日本資本主義発達史 金曜1、2限

8.ゼミ HP・SNS

<https://twitter.com/uedahiro2020>

9.連絡先

太田聰一研究会

—労働経済学—

1. 研究分野

労働経済学

2. 学生への要望

日吉で習う経済学の基本と論理的な思考、ゼミ内での議論に必要なコミュニケーション能力

3. 選考について

a. 募集人数：15人程度

b. 選考内容

事前課題、面接

c. 他学部入ゼミ、PEARL生受け入れの可否
可

d. 選考基準

事前課題の点数、面接

4. ゼミ構成員

4年生：男子9人、女子5人
(他学部0人、留学中1人)

3年生：男子7人、女子7人
(他学部1人、留学中0人)

5. 活動紹介

①ゼミ（水曜4、5限）

②サブゼミ（曜限）

なし

③パートゼミ

なし

④インゼミ

なし

⑤課外活動

なし

⑥三田祭

三田論出展

⑦夏休み

三田論執筆

⑧合宿

夏合宿

⑨ゼミ必修授業

なし

⑩経費

課題図書の使用

合宿費（宿泊地による）

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

労働経済学入門（有斐閣）

7. 先生が担当している講義

労働経済論 b

8. ゼミ HP・SNS

Twitter: @keioota2020

9. 連絡先

制度政策

駒村康平研究会

寺井公子研究会

山田篤裕研究会

駒村康平研究会

—社会保障制度・社会政策・福祉—

1.研究分野

少子高齢化の進展や所得格差・貧困の拡大の中、年金、医療、介護、生活保護、障害者福祉、児童福祉といった社会保障制度に関わる多くの問題が人々の関心を集め、重要な政策課題となっています。本ゼミでは、高齢化社会の進展の中で社会保障制度がどのような役割を果たし、どのような問題を抱えているのか、そしてどのような改革案があるのか、それをどのように実行していくのかを研究しています。また、他大学等、外部機関との研究交流、見学、各種研究会での報告なども行っています。

なお現在の研究テーマは、高齢化社会、格差・貧困、雇用問題、生活保護、および子育て支援政策、障害者福祉、年金制度改革、金融老年学が中心となっています。

2019年度の研究会の对外活動の実績は以下の通りです。

大学交流会：早稲田大学、同志社大学
三田祭発表、ユース年金学会報告

2.学生への要望

ゼミは「静以修身、儉以養徳」(優れた人は静かに身を修め、徳を養う。学問は静から才能は学から生まれる。学ぶことで才能は開花する。志がなければ学問の完成はない。『誠子書』)の考えに基づいて運営していきます。学生の皆さんには、質実剛健、元気で、ゼミ活動や学問に積極的な人をのぞみます。また、普段から英語の学習、PCの積極的な活用を期待します。

3.選考について

a.募集人数：15人程度

b.選考内容

事前レポート、指定図書に基づく筆記試験、面接

c.他学部入ゼミ、PERAL生受け入れの可否

受け入れはいたしますが、ゼミでは日本語の経済学や社会保障制度の文献を大量に読むこととなりますので、経済学と日本語の文献を読めることが最低限の条件となります。

d.選考基準

事前レポートについては、社会保障制度について明確に関心があるか、きちんとした日本語を論理的に書くことができるかといった点に注目します。具体的なレポートの課題は後日発表しますが、例年、社会保障制度の課題についてのレポートを求めています。

筆記試験については、レポート作成のために指定した文献の理解について30~40分程度の記述試験となります。

面接はレポートの内容に関する質疑、社会への問題意識、将来の志、ゼミ活動における貢献や協調性の有無といった点から評価します。

4.ゼミ員構成

4年生：男子10人、女子8人
(他学部1人、留学中2人)

3年生：男子7人、女子10人
(他学部0人、留学中1人)

5.活動紹介

① ゼミ(水曜4・5限)

3年生は『判断力－判断と意思決定のメカニズム』(スコット・プラウス著)の輪読を行います。週に2人程度が自分の担当の章の発表を行い、先生から質問やご指摘をいただきます。4年生は卒業論文の発表を行います。また、3・4年生合同でグループワークやディスカッションを行うこともあります。

② サブゼミ

行っておりません。

③ パートゼミ

3年生は4班に分かれてパートゼミを行っております。各班のテーマは駒村先生の専門分野である年金以外は社会の情勢やゼミ員の関心によって毎年変わります。今年の班構成は①年金班②格差班③労働班④子供班となっております。班ごとの活動ですので学生主体で時間を決め、週1回程度集まっています。

④ インゼミ

今年は12月に京都にて同志社大学の佐々木ゼミとのインゼミ、そして早稲田大学とのインゼミを行う予定です。

⑤ 課外活動

三田アカデミーという勉強会を行っていません。社会で活躍されているOB・OGや社会人の方々を講師としてお招きして、実際の企業の仕事内容など様々な分野の業界の現状を知ることができます。

⑥ 三田祭

班ごとにパートゼミで勉強してきたことを発表する場です。是非お越しく下さい!

⑦ 夏休み

論文発表に向けて、班ごとに集まりパートゼミを行います。

⑧ 合宿

例年、9月上旬～中旬にかけて行っております。内容は、3年生は班ごとの研究成果の中間報告、4年生は卒業論文の中間報告が主です。

⑨ ゼミ必修授業

駒村先生が担当されている講義は必修です。その他にも今年度は社会福祉論が必修となっています。

⑩ 経費

合宿費以外は徴収しておりません。

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

昨年度ゼミで指定された課題図書

『日本の年金』駒村康平著(岩波書店)

7.先生が担当している講義

日吉：なし

三田：社会政策論b(秋学期、水曜2限) 長寿と金融(秋学期、木曜2限)

8.ゼミHP・SNS

HP：<https://komamura-keio-econ.jimdofree.com/>

Twitter：@komamura_semi

9.連絡先

寺井公子研究会

—公共経済学・財政学・政治経済学—

1. 研究分野

公共経済学は、政府の経済活動を分析する学問です。市場メカニズムだけでは解決できない問題に対して、政府はどのような対応をとるのが望ましいかを考えます。

実際、政府は課税、公共事業、社会保険の提供、生活保護制度による国民の生活水準の保障等、様々な手段を用いて経済政策を行っています。政策は個人や企業の意思決定に影響を及ぼし、所得や資産の分布を左右します。現行の制度・政策がどのような役割を担い、どのような効果を生み出しているのか、問題点は何かを考察することが重要です。その上で、人々を経済的により幸福にする政策のあり方を探求することも、公共経済学に期待される役割です。

一方、政治経済学は、政治的要因が政策の選択・実行にどのような影響を与えているのかに注目します。特に、選挙や議会などの政治制度が、政治家、官僚、利益団体、有権者の行動にどのような影響を与えているかについて、経済学的な分析手法を用いて考察します。望ましい政策の実施を妨げている要因について考えることも同様に重要なことであると考えます。

2. 学生への要望

研究分野の性格から、理論と現実の双方に関心を持つことが非常に重要だと考えています。現実の経済で起こっている様々な問題の本質的原因は何かを常に考える姿勢が重要であり、一方で、現実の部分を観察するだけでは、経済の大きな流れや望ましい経済のあり方を見失うこともあります。

このような考えの下で、基本的理論の学習・理解と、データを読んで扱えることの双方にウエイトを置いて、研究会の活動を進めていきます。

特に、ミクロ経済学と統計学の基礎的知識を習得していることを前提とします。経済政策について豊富な知識を持っている必要はありませんが、関心と意欲を持ち、かつその意欲を持続できる人、根気強く文献を読んで自ら考えられる人、またゼミは集団での学習の場ですので、積極的に活動に参加して他のメンバーにも良い刺激を与えられる人の応募を期待しています。

3. 選考について

a. 募集人数：16名

b. 選考内容

(a) 小論文

テーマ：書籍、学術論文、あるいは新聞記事から、我が国の経済政策・公共政策に関して書かれた論述文の一つを取り上げ、それについて議論しなさい。

字数：3,000～4,000字

●取り上げた論述文の出典を必ず明記すること。

(b) 面接

(c) 1・2年次の成績

c. 他学部生、PEARL生受け入れの可否

ともに可

ただし、研究会は日本語で行います。

d. 選考基準：②の選考内容(a)～(c)のそれぞれについて、特に次の点を重視します。

(a) 文章力、議論が具体的か、文献をよく読んで深く考察しているか

(b)関心、意欲

(c)参考程度(ミクロ、マクロ、統計)

4.ゼミ構成員

4年生：男子11人、女子5人

(他学部0人、留学中0人)

3年生：男子10人、女子6人

(他学部0人、留学中1人)

5.活動紹介

①ゼミ(水曜4,5限)

春学期は「公共経済学 ベーシック+」(中央経済社)や、公共政策に関する論文等の輪読、三田祭論文・卒業論文のテーマ発表を行いました。秋学期は、三田祭論文・卒業論文の中間発表、教科書や学術論文の輪読等を行う予定です。

②サブゼミ(月曜4限)

基本的に3年生のみで行います。春学期前半に、データ分析に必須である統計ソフト Stata の操作方法を学習しました。

③パートゼミ

3年生は Stata の学習後、三田祭論文の作成を始めます。各自の興味・関心に応じて4つの班に分かれ、班ごとに論文の執筆を進めていきます。今年は、財政班、地域財政班、福祉班、教育班の4つに分かれています。

④インゼミ

現在のところ、インゼミを行う予定はありません。

⑤課外活動

経済学部ゼミナール委員会主催のソフトボール大会に参加します。

⑥三田祭

各班で作成した論文を発表・展示します。

⑦夏休み

三田祭に向けて各班で集まってパートゼミを行い、論文執筆のために調査・研究・分析を進めます。なお、サークルやインターン等との両立は十分に可能です。

⑧合宿

今年度は、9月中旬に群馬県の伊香保にて2泊3日で行いました。三田祭論文・卒業論文の中間発表を行いました。

⑨ゼミ必修授業

ゼミ必修として指定する授業はありませんが、履修を推奨する授業があります。

⑩経費

年会費はありません。合宿費は例年3万円程度です。

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

各自が入ゼミ小論文で取り上げるテーマに応じて、適宜お読みください。

7.先生が担当している講義

日吉：無し

三田：経済政策論 a/b (水曜3限)

8.ゼミ HP・SNS

HP：<http://terai.weblike.jp/>

Twitter：[@teraizemi2019](https://twitter.com/teraizemi2019)

9.連絡先

山田篤裕研究会

—社会政策（社会保障と労働政策）—

1. 研究分野

社会問題を取り除き、人々の生活をより善くすること。それが社会政策です。「社会が生み出す病（やまい）に対する処方箋」とも言えます。

各人の関心に応じ研究テーマを個別に設定し、人々のより善き暮らしのため、社会政策にできることは何か研究します。

BOX：「社会政策」とは

社会政策は大きく、社会保障・福祉政策と雇用政策の2つに分けられます。

社会保障・福祉政策には、高齢期や稼働者死亡時の家族の所得保障（老齢、遺族年金）、失業時や育児・介護休業時の所得保障やサービス（雇用保険、介護保険、保育サービス）、最低生活水準に満たない場合の所得保障（生活保護）、傷病時の医療サービスや所得保障（医療保険）、障害を負った場合の所得保障やサービス（障害年金、障害者サービス、労災保険）などがあります。

雇用政策には、最低水準の賃金を定めた最低賃金法、長時間労働等を禁じた労働基準法、就職・仕事内容の男女差別を禁じた男性雇用機会均等法、公共職業訓練や公共職業安定所などがあります。

超高齢化にもかかわらず、日本の社会保障給付費（年金・医療・介護等）は抑制され、そのひずみが生活不安となっています。財政的に社会保障費を一律抑制する単純な発想では、社会問題は解決できません。とくに先進国中、日本のワーキング・プア率は高く、育児・介護による離職は多く、長時間労働や正規・非正規間雇用格差、所得格差、健康格

差、社会的孤立等、解決すべき社会問題が山積みしています。

各社会政策（BOX 参照）が社会問題にどう影響しているか明らかにし、解決策を模索する、最も歴史ある学問分野の一つです。

2. 学生への要望

社会政策の知識を将来のキャリアに活かしたい学生（研究者、公務員、ジャーナリストなど）から、とにかく社会問題に関心がある、という学生まで幅広く歓迎しています。

いずれにせよ①社会問題への強い関心、②文献・データ収集・分析などの地道な作業への根気が求められます。ただし、社会政策の知識や分析手法は入ゼミ後、落ちこぼれを出さないよう一から手ほどきします。

研究を通じ、より善き人々の暮らしのための「新しい知見」を得ることが最終目標です。研究の大半は地道な作業ですが「新しい知見」に出会う喜びも必ずあります。

3. 選考について

a. 募集人数：15～20人

b. 選考内容 (a)事前レポート、(b)課題文献に基づく記述式筆記試験、(c)教員面接（レポート、ゼミでの研究テーマに関する質疑応答）、(d)成績表

c. 他学部入ゼミ：可（入ゼミ許可者への必読図書あり）

PEARL 生受け入れ：可

d. 選考基準：②に基づく総合判断

4. ゼミ構成員

4年生：男子15人、女子8人
（他学部0人、留学中1人）

3年生：男子13人、女子5人

(他学部0人、留学中0人)

5.活動紹介

① ゼミ (月曜3~4限)

今年の本ゼミでは、『社会政策』駒村康平・山田篤裕ら(著)・『良き社会のための経済学』ジャン・ティロール(著)の2冊(予定)に関して、毎週担当グループがレジュメ形式で要点をまとめます。秋学期については例年3年生・4年生の研究報告とそれに対する指導が中心に行われます。

② サブゼミ (水曜3~4限)

パートゼミ毎に分かれ、自分達で設定した研究テーマに基づき、研究活動に取り組んでいます。

③ パートゼミ

研究テーマごとに、少人数での研究班(パートゼミ)を構成し、論文作成を行います。三田祭論文やISFJ日本政策学生会議(他大学合同の論文コンテスト)で高評価が得られることを目指し、研究班ごとに取り組んでいます。今年のテーマは、介護、労働、貧困の3テーマです。なおパートゼミの研究テーマは、ゼミ員各自の関心ごとに沿って自ら設定しているので、毎年異なります。

④ インゼミ

ありませんがISFJ日本政策学生会議への参加を通じ、他大学・他ゼミとの交流があります。

⑤ 課外活動

パートゼミ活動の一環として、ISFJ日本政策学生会議へ参加しています。昨年度も複数の論文が受賞しています。

⑥ 三田祭

ブースにてポスターセッション形式での論文発表を行います。また別途、口頭でのプレゼ

ンを行います。

⑦ 夏休み

研究班毎に集まり論文作成を随時進行します。8月中に大まかに論文を完成させ、今年は9月上旬の夏合宿で中間報告を行いました。

⑧ 合宿

全員参加の1泊2日の夏合宿では、主に卒業論文、各パートの共同研究の中間報告と質疑応答、指導が行われました。

⑨ ゼミ必修授業

「演習」、「社会政策論」、「社会福祉論」を履修し、社会政策研究や分析を行う上で必要な知識・分析手法を学びます。

⑩ 経費

輪読書購入の他、合宿費、ISFJ参加費、経ゼミ費等が適時必要になります。

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

山田篤裕他編【2014】『最低生活保障と社会扶助基準』明石書店

駒村康平・山田篤裕他【2015】『社会政策』

7.先生が担当している講義

社会政策論(三田、春学期水曜日2限)、演習(三田、春学期火曜日3,4限)

8.ゼミHP・SNS

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/yamadasemi/>

Twitter @yamadaseminar

9.連絡先

経済学史・思想史

池田幸弘研究会

川俣雅弘研究会

池田幸弘研究会

—経済学史・経済思想史—

1. 研究分野

ゼミを開講してから、もっぱら新自由主義の経済政策思想を考察の対象にしてきた。前期は、反ケインズ派による著作を輪読の対象とする。今年はシュンペーターの『資本主義・社会主義・民主主義』を輪読の対象としている。いままで輪読の対象としたものとして、ハイエクの『隷従への道』、同『法・立法・自由』などがある。これにより、ゼミの参加者は反ケインズ的な経済思想について一定の見通しがえられたはずである。毎年、後期には、四年生の卒業論文の報告が行われる。このために、四年生はある時期までに、各自のテーマと当該テーマについての参考文献表を作成することが求められる。卒業論文の内容について私のほうから制約することは考えてはいないが、経済思想、あるいは経済政策思想が担当者にとっては指導しやすい。ここでいう経済思想はケインズやスミスのような偉人のそれにとどまらない。偉人の経済思想をなんらかの形で体現した民間人、あるいは日常感覚のレヴェルで経済のことを思考の対象とした経済人、これらの思想はいずれも研究の対象となる。一例をあげよう。ハイエクなどの新自由主義的経済思想は、サッチャーやレーガンの経済政策に反映され、それが今日の日本の経済政策論議に一定の影響を与えるに至っている。たとえば、小泉政権下での構造改革が、どの程度ハイエク的な発想に基づいているかを検証することも当研究会の研究対象となる。経済思想は死んだ思想ではない。実務家の観念がいかに過去の経済思想に拘束さ

れているかを強調したのはかのケインズであるが、当研究会ではこのケインズの発言を具体的に論証していくことが一つの大きな課題となっている。

2. 学生への要望

経済学のような科学には、常に学理と実践の間の往復運動が必要である。実際の経済や実践について何の興味も持たないような経済学研究者はほめられたものではないし、また逆に日々の実践のなかで原理的な問題にぶちあたらないようなビジネスマンも寂しいのではないだろうか。実践で生じた問題について、広い意味での学理からの追求がもとめられているのである。こうした実践を意識した上での本格的な経済学研究は、むしろ卒業後にはじまるものなのかもしれない。大学人であるという制約から前者について助言を与えるとすることが主となるが、学生諸君が社会にでたときにおこりうるさまざまな問題に対処するための一定の視角を与えるということについては、おおいに興味があり、ゼミ員とはさまざまな問題について議論していきたいと考えている。なお、日本語を母語としない学生の参加も歓迎する。ゼミ全体の運営は日本語だが、個別報告、ディスカッションの一部を英語で行う準備はある。したがって、一定レベルの日本語能力がある学生は本ゼミナールに参加可能。

3. 選考について

a. 募集人数：合計で最大 15 名程度

b. 選考内容

A 日程 面接

B 日程 簡単な筆記試験（成績証明の提出

を要する。ただし参考程度。)

c.他学部入ゼミ、PEARL 生受け入れの可否
共に可。ただし基本的な日本語の能力は必要。

d.選考基準

A日程 日吉での学習や読書について伺うことが多い。特段の準備は必要ないが、日吉で経済思想の歴史や近代思想史を受講していれば、当該分野についての一定の見通しを得ることができよう。

B日程 筆記試験と日吉での成績。重点は前者。

4.ゼミ構成員

4年生：男子12人、女子1人

(他学部0人、留学中2人)

3年生：男子14人、女子2人

(他学部1人、留学中0人)

5.活動紹介

①ゼミ (水曜 4.5 限)

池田ゼミでは主に経済思想史を中心に研究しています。今年はハイエク「自由の条件」の輪読を行い、各々が読み解いた内容を元に様々な観点から考察し、ディスカッションを行っています。池田ゼミでは異なるバックグラウンドを持つ学生が所属しているため、学生同士が独自の意見を交え議論する事で様々な考え方に触れる事ができ、また他の学生からフィードバックを得る事により自身の考え方や価値観を広げる事もできるため、とても充実したゼミ生活を送る事ができます。

②サブゼミ (曜 限)

なし

③パートゼミ

なし

④インゼミ

なし

⑤課外活動

なし

⑥三田祭

なし

⑦夏休み

なし

⑧合宿

今年は夏休みに2泊3日で行いました。

⑨ゼミ必修授業

任意ですが、火曜日開講の経済学史の授業を履修すると学習効果は高いと思います。

⑩経費

教材費と合宿費

6.ゼミ試験対策で使用了参考書

特になし

7.先生が担当している講義

経済学史Ⅱa/b (HISTORY OF ECONOMIC THOUGHT2A) (春秋火曜1限)

演習 (半期) (SEMINAR IN SPECIAL TOPICS) (春金曜2限)

8.ゼミHP・SNS

なし

9.連絡先

川俣雅弘研究会

—経済学史—

1. 研究分野

研究分野は基本的に経済学史ですが、経済学史には様々なアプローチがあります。教授の経済学史研究は経済学の歴史に理論的にアプローチすることです。すなわち、研究対象である過去の一連の理論をそれらの理論の発展型であると考えられる現在の理論から解釈し、公理系として定式化した上でそれらを比較、対照し、理論の歴史を小売系の展開として把握し、理論の系統樹を作成することを目指しています。

こうしたアプローチに基づいて経済学史を研究する場合、経済理論の習得が前提になります。教授の研究対象はマイクロ経済学の基本的テーマである一般均衡理論及び厚生経済学です。そこで当研究会では一般均衡理論及び厚生経済学の理解や研究を行うか理論の歴史を学ぶか年度毎に選択し、授業を進めていきます。卒論は選択した基礎知識に基づいて各自関心のあるテーマについて研究を行います。

経済理論の系統樹が存在するとして、その系統樹を遡る過程で経済理論の発展を理解することができるはずです。理論の発展の発生するおそらく最大の要因は経済そのものの発展です。経済学は経済学を事実解明的、規範的に分析する学問ですから、それは当然であると言えます。よって、経済学史を研究する際には、経済理論の歴史について研究するとともに、その理論が形成された時代背景となる経済がどのように発展したかをも学びます

2. 学生への要望

研究会では、もちろん専門知識を習得して研究を行うことを目指しますが、誰もが研究者になるわけではありません。経済学史とは、最先端の経済学を学ぶというよりも歴史的に蓄積された様々な考え方を吸収して自己の考えを確立する、というバランス感覚を養える学問です。そのプロセスで、論理的な思考と経験的事実に誠実に向き合う姿勢が重要だと考えます。研究会を、科学的なものの見方を習得し、自分自身の知性を確立させるステップにしてください

3. 選考について

a. 募集人数： 20人程度

b. 選考内容

英語とマイクロ経済学の筆記試験と面接を行います。試験問題のサンプルとその他試験範囲に関連した資料を適当な時期に keio.jp の授業支援システム内の「研究会 a,b」に塾内公開の資料としてアップロードします。各自試験の用意に役立ててください

c. 他学部入ゼミ、PEARL 生受け入れの可否
どちらも可ですが研究会は日本語で行われます。

d. 選考基準

経済学史に興味のある生徒はもちろん募集していますが、筆記試験の点数が選考に大きく影響します。

4. ゼミ構成員

4年生：男子 23人、女子 5人
(他学部 0人、留学中 0人)

3年生：男子 20人、女子 3人

(他学部 0人、留学中 0人)

5.活動紹介

①ゼミ (火曜4, 5限)

②サブゼミ

なし

③パートゼミ

なし

④インゼミ

なし

⑤課外活動

なし

⑥三田祭

なし

⑦夏休み

特記事項なし

⑧合宿

希望者のみ参加(成績に影響あり)

⑨ゼミ必修授業

なし

⑩経費

(参加者のみ合宿費)、普段のゼミで使用する教材費

6.ゼミ試験対策でを使用した参考書

特に参考書などを用いて対策する必要はありません

7.先生が担当している講義

日吉：経済思想の歴史

三田：経済学史

8.ゼミ HP・SNS

twiter:@kmlabo2020

9.連絡先

